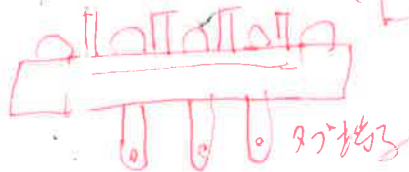


'83.12.13

コナミ株式会社殿向

Kohsec - P1
[CP2002]
取扱説明書 (最終原案)

162



昭和58年10月発行



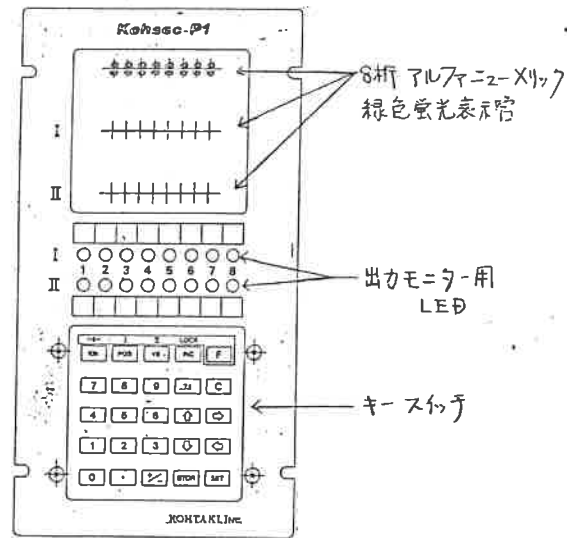
Handwritten signature.

— 目次 —

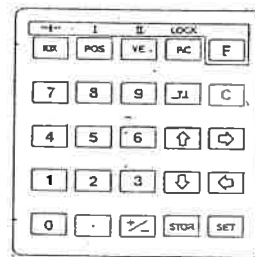
1. 基本仕様	1
2. 各部の説明	
2-1 外觀説明	2
2-2 キー・スイッチ	2
2-3 リアパネル	5
2-4 入出力インターフェイス	6
3. 操作方法	
3-1 電源投入	7
3-2 実行パターンを読み出し	8
3-3 ファンクションキー	
3-3-1 表示モードの切換え	9
3-3-2 軸置換	11
3-3-3 座標値の置数	12
3-3-4 パンチ図数の置数	13
3-3-5 スケール原点	15
3-4 メモリ操作	
3-4-1 データの消去	16
3-4-2 プログラミングモード	18
3-4-3 原点シフト量の設定	18
3-4-4 データの読み出し	20
3-4-5 データの編集	21
3-4-6 データの書き込み	23
3-4-7 ティー・テグ	26
3-4-8 パターンのコピー	28
3-5 データのチェック	
3-5-1 恒置データチェック	29
3-5-2 ドライラン	30
3-6 自己診断機能	32
3-6-1 入カポートテスト	33
3-6-2 出カポートテスト	34
3-6-3 キーボードテスト	36
3-6-4 表示テスト	37
3-6-5 メモリテスト	38

2. 各部の説明

2-1 外觀説明



2-2 キースイッチ



IDX インデックスキーです。機能を選択する時に押します。

POS 速度表示, 回数表示より 座標表示にする時に押します。
[Position]

VE 座標表示, 回数表示より, 速度表示にする時に押します。
[Velocity]

PC 座標表示, 速度表示より, 回数表示にする時に押します。
[Punch counter]

F ファンクションキーです。このキーを押したあと 続けて 以下のキーを押しますと キーの意味が, () 内に示された意味となります。

(↑↓)	(I)	(II)	(Lock)
IDX	POS	VE	PC

最上桁左端のデジタの
小数点ガ 点灯します。

T-I プログラミングモードにて, プログラム作成中に, 現在座標値を, プログラム座標値に, 読み出する時に押します。
[Teach In]

C フリーキーです。置数を変更した時, 又は, アラーム表示を 解除する時等に押します。
[Clear]

↑ ↓ → ←

機能選択時, 点滅 (カヨウ) の初動に使用します。

SET 機能, 必要 置数を 設定させる時等に使用します。

STOR 作成した プログラムを, Xメモリに, 格納する時, あるいは, バックアップを
おこなった Xメモリに, 格納する時に押します。

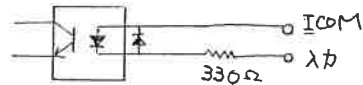
0 ~ 9, +, -

置数用のキーです。

2-4 入力インターフェイス

2-4-1 入力インターフェイス

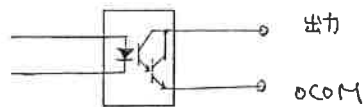
入力信号はフォトカプラで受信しています。



入力条件

最大耐電圧	$V_{max} = 30V$
最大耐電流	$I_{max} = 20mA$
推奨動作電圧	$V_{ope} = 12 \sim 24V$
推奨動作電流	$I_{ope} = 5 \sim 15mA$

2-4-2 出力インターフェイス



出力条件

最大耐電圧	$V_{max} = 30V$
最大耐電流	$I_{max} = 50mA$
推奨動作電圧	$V_{ope} = 24V$
推奨動作電流	$I_{ope} = 25mA$

3. 操作方法

3-1 電源投入

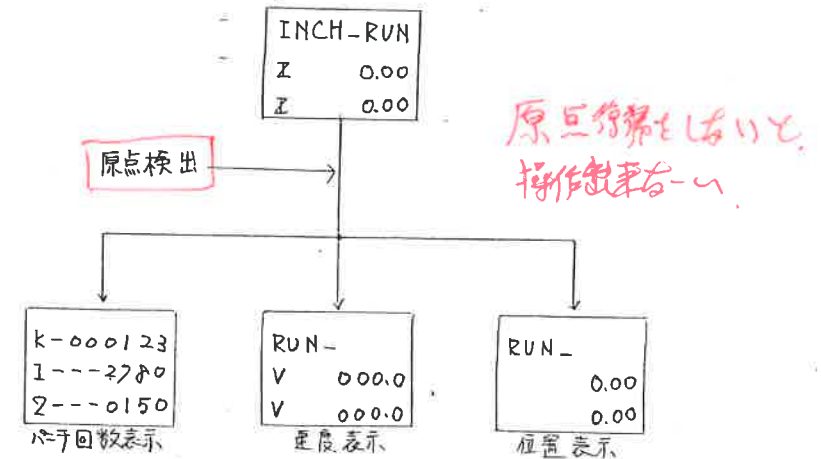
電源を投入すると。

1. SELF TEST (RAM, LSI, etc)
2. PROTECT SWITCH
3. プログラム内容
4. システムパラメータ
5. 電池の有無

以上のチェック項目を実行します。

もし、エラーが生じた場合は、それに対するメッセージを表示し、ALM出力をします。(明詳は4の7-4の項目に記述)

エラーがなければ自動的に原点復帰検出モードとなり下記表示となります。

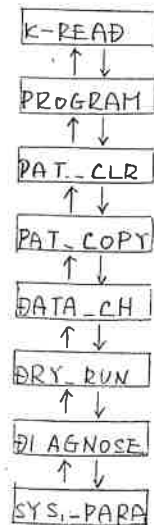


原点検出後の表示がどれになるかは、システムパラメータ06によります。

Iデックモードの中には次の8モードがあります。

- K-READ : 実行パターンの読み出し
- PROGRAM : プログラミング
- PAT-CLR : パターンの消去
- PAT-COPY : パターンのコピー
- DATA-CH : 位置データチェッ
- DRY-RUN : ドライラン
- DIAGNOSE : 自己診断機能
- SYS-PARA : システムパラメータ

Iデックモード



↑ --- [F] キー

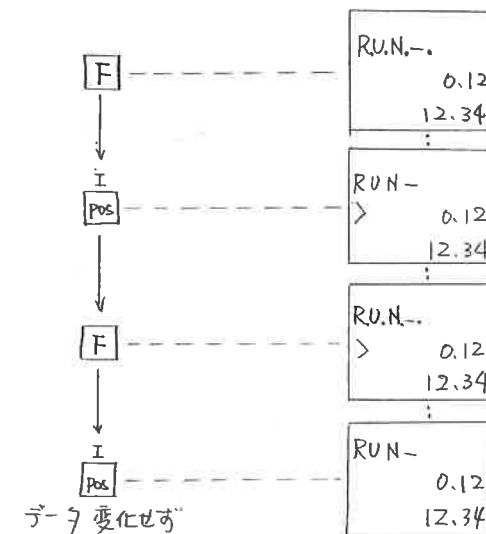
↓ --- [I] キー

3-3-2 軸選択

^I
[F] [Pos] ^{II}
[VE] [SET]

I軸, II軸の名軸指定に関連した操作の場合に必ず押す必要があります。

[F]・^I[Pos] ([F]・^{II}[VE]) を押しますと、I (II) 軸の選択がされたことになり、各機能の設定が出来ます。



[SET] キーは、キー操作したデータをセットするキーです。

[SET] を押さない限り、14位迄の測定データは、カウンタに残っておりいつでも表示再現することが出来ます。

② パンチカント数 600 にセットする。

[F] - [VE]^{II} ----- K-000123
 "Z" 点減 ----- 1---1550
 ----- 2---0150

[6] [0] [0] ----- K-000123
 ----- 1---1550
 ----- 2---0600

[SET] ----- K-000123
 ----- 1---1550
 ----- 2---0600
 "Z" の点減が止まる

3-3-5 スケール原点 [F] [Pos]^I [VE]^{II}

スケールエラー、あるいは座標値のプリセットなどで、
 絶対原点を失った場合に、この操作をおこないます。

① I 軸の原点をいろう。

[F] → [Pos]^I ----- RUN-
 "Z" 点減 ----- Z 0.12
 ----- 543.22

[F] → [IDX]^{II} ----- RUN-
 "Z" 点減 ----- Z 0.12
 ----- 543.22

[SET] ----- RUN-
 "Z" 点減 ----- Z 0.12
 ----- 543.22

- ・原点位置で Z マーク消灯、
- ・ブザー ON (0.5 秒間)
- ・表示は 原点シフトサ 0 であり、
 通過の瞬間 0 となり、以後カウントを
 続行する

尚、電源投入時に 原点検出モードに自動的になるため、
 電源再投入を、することによってスケールの絶対原点を
 検出することも出来ます。

3-4-2 プログラミングモード

1=デックスモード中に **PROGRAM** が点滅する時に、
 [F4], [F5] キーで、カーソルを移動し、[SET] キーを押すことにより
 プログラミングモードに入ります。



```

PROGRAM
K-010001
P-0
  
```

図3-4-2. プログラミングモード表示

3-4-3 原点シフト量の設定

[F4], [F5] キーで、プログラミングをするパターン 番号と座番を選択し
 [SET] を押します



```

PROGRAM
K-000123
Z 0.00
  
```

点滅

図3-4-3 パターン1を選択した状態

I 軸の、このパターンにおける 原点シフト量の入力となります。
 変更しない場合はそのまま [SET] を押します

変更 する場合、ここで、シフト量を定数し、[SET] を押します。

例えば、12.50 を原点シフト量とする場合

```

1 2 . 5
-----
PIS1
K-000123
Z 12.50
  
```

[SET]

↓

```

PIS2
K-000123
Z 0.00
  
```

次にスケール2の 原点シフト量の入力となります。
 スケール1と同様な操作後、[SET] キーを押します



```

P1.S1.C1.D1
> 1.00 ← ON 地点
> 2.00 ← OFF 地点
  
```

P :	(Pattern)	0~4	[パターン]
S :	(Scale)	1~2	[スケール]
C :	(Channel)	1~8	[チャネル]
D :	(Dog number)	1~4	[ドッグナンバー]

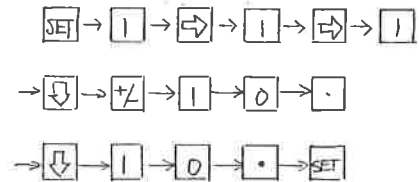
パターンについて

0 --- 実行パターン

1~4 --- バックアップメモリーパターン

③ スケール 1, チャネル 1, ドッグナンバー 1 の

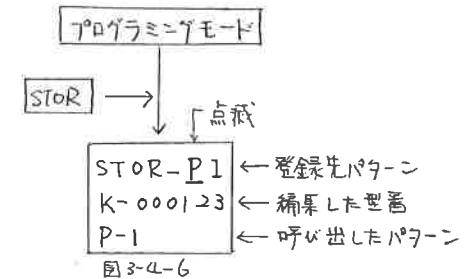
ON 地点 を -10.00
OFF 地点 10.00 に設定する



④ ③ の状態で、OFF 地点のみを 2.0 に変更する

3-4-6 データの書き込み STOR

プログラム編集後は、必ず STOR キーを押してください。
編集後、STOR キーを押す前に EXIT キーを押してしまうと、編集した内容は全て消えてしまいますので、注意してください。



① 登録パターンの変更

プログラミングモードから STOR キーを押すと "P" が点滅しますので、その場で登録すべきパターンを ①～④ で入力します。

② 登録番号の変更

"P" が点滅中に、K キーを押すと点滅が "K" に移りますので、この時点で登録型番番号を入力し SET キーを押します。

③ 書き込み

もう一度、STOR キーを押します。

3-4-7 テーテング T-I

位置データをプログラミングモードで、データとして呼び出す時に、使用します。

まずプログラミングでパターン0を選択します。
原点シフトは、変更せず。そのまま SET を押し、図3-4-2の表示にします。

① ステール1, チャネル2, ドックナンバー1のON地点のテーテング

SET → 1 → ⇨ → 2 → ⇨ → 1 → SET

POSIC2DI の内容表示とします。

SET → ⇩

操作で、"J"マーク点を、ON地点に移します。

手動でON地点まで機械を移動させます。

位置決め完了時、

T-I

を押します。これで現在位置が、ON地点データに転送されます。

SET キーで設定が完了します。

② ステール1, チャネル2, ドックナンバー1のOFF地点のテーテング

SET → 1 → ⇨ → 2 → ⇨ → 1 → SET

SET → ⇩ → ⇩

手動にて移動 →

T-I → SET

③ ステール1, チャネル3, ドックナンバー4のON, OFF地点のテーテング

SET → 1 → ⇨ → 3 → ⇨ → 4 → SET

SET → ⇩

ON地点まで移動

T-I ⇩

OFF地点まで移動

T-I SET

編集後は必ず、STORE キーを押し書き込みを、おこなってください。

3-5-2 ドライラン [DRY-RUN]

スケールを実際に動かさなく、あくまでスケールが初動しているかのように仮想カウントし、出力をモニターします。

インテックスモード中に [DRY-RUN] が点滅するように、
[↑]、[↓] キーで、カーソルを移動し、[SET] キーを押すことにより、
ドライランモードに入ります

↓

```

DRY-RUN
k-000123
P-0
  
```

[↑]、[↓] キーで、チェックするパターンを、選択後 [SET] キーを押します。

↓

```

DRY-RUN
P-1
S-0
  
```

← "S" 点滅

次に、スケールの選択をします。[1] or [2] を押し、[SET] を押します

↓

```

DRY-RUN
PIS1
M-0
  
```

次に、モードを選択します。[0] or [1] を押し、[SET] を押します。

モード 0 ---- -9999.99 から 9999.99 への仮想カウント

モード 1 ---- 9999.99 から -9999.99 への仮想カウント



[0] → [SET] →

↓

```

DRY-RUN
PIS1M0
-9999.99
  
```

もう一度 [SET] を押し、走りだします。

プログラムデータの設定されている位置データまで、仮想
カウントし、その位置で、止まり、LED に、その座標における出
力を、モニターします。

次に、直めるには再び [SET] キーを、押します。

3-6-2 出力ポートテスト

カーソルを "OUT" まで移動し を押す



DGS-OUT	
NO-0	ポート番号
00000000	出力データ

"NO-" が点滅中は、NO- の受付中です。

, キーで、変化させてください。

この時に、下段に表示されるデータは現在出力されているデータです。

NO- と 各出力ポートの対応表は表3-6-2に示します。

④ 設定データの出力

NO- の 0 ~ 7 までは データ出力を、設定 する ことが 出来ます。

"NO-" が、点滅中に , キーで、設定 する 値、"NO-" を 選択 したら キー を 押して下さい。

"NO-" の 点滅 は 止まり、出力データの 設定 値 となります。

データは , キーで 各出力状態を 設定 して下さい。

入力を 終了 したら キーで、出力を 回復 します。

この設定の 解除 方法 "NO-" を 9 にして キー を 押し、この 操作 により 出力ポートのテストで 設定 した 出力を 解除 できます。

表 3-6-2 出力ポート

NO	名称	内容	8	7	6	5	4	3	2	1
0	I OUT	I 軸 出力	C 11 % - 7	C 12 % - 8	C 13 % - 9	C 14 % - 10	C 15 % - 11	C 16 % - 12	C 17 % - 13	C 18 % - 14
1	II OUT	II 軸 出力	C 21 % - 15	C 22 % - 16	C 23 % - 17	C 24 % - 18	C 25 % - 19	C 26 % - 20	C 27 % - 21	C 28 % - 22
2	LED I OUT	I 軸 LED 出力	LED I1	LED I2	LED I3	LED I4	LED I5	LED I6	LED I7	LED I8
3	LED II OUT	II 軸 LED 出力	LED II1	LED II2	LED II3	LED II4	LED II5	LED II6	LED II7	LED II8
K	% OUT	% エラー 出力	AUX 3	BVZ % - 26	ALM % - 23	NHCL % - 23	PCF % - 23	AUX 2	AUX 1	RP % - 24
5	エラー コントロール	S Error ORG	/	/	/	/	/	/	IIABSC	IABSC
6	カタ ラッチ	I CL, II CL LATCH	YCS	XCS	YCL	XCL	LATCH	T2	T1	T0
7	EEPROM	EEPROM 250	+250	/	/	PGM	CS	EA10	EA9	EA8
P	MSEG 1	I_SEG	SEG 18	SEG 17	SEG 16	SEG 15	SEG 14	SEG 13	SEG 12	SEG 11
9	MSEG 2	II_SEG	SEG 28	SEG 27	SEG 26	SEG 25	SEG 24	SEG 23	SEG 22	SEG 21
A	M DIGIT 0	DIGIT	DIGIT 8	DIGIT 7	DIGIT 6	DIGIT 5	DIGIT 4	DIGIT 3	DIGIT 2	DIGIT 1

3-6-5 メモリーテスト

カーソルを "MEM" まで移動させ、☐SET を押します



DGS-MEM
BLOCK
ALL

ブロックチェックか、全てのチェックかを、☐UP, ☐DOWN キーで選択します。

① BLOCK の場合

DGS-MEM
BLOCK
NO-0

"No-" は パターンナンバーと同等で、そのパターンのチェックをおこなうと、そのパターンの内容は破壊されます。

② ALL の場合

DGS-MEM
BLOCK-1 ← ブロック数
L-0000 ← レージ数

チェックモード解除まで、全てのメモリーをチェックします。

※ メモリーテストを行なわずに、メモリー内容が破壊されてしまふので、充分ご注意ください。

3-6-6 バッテリーテスト

カーソルを "BAT" まで移動させ、☐SET を押します

OK の場合

DGS-BAT
OK

バッテリー交換の場合

DGS-BAT
ALM-

3-6-7 RAM リード

カーソルを "RAM" まで移動させ、☐SET を押します

DGS-RAM
NO-8006 ← アドレス
00000000 ← データ

アドレスは、☐UP, ☐DOWN, ☐RIGHT, ☐LEFT キーで変化させ、その内容をチェックします。

(双葉側のシステムテスト機能)

J-7-5 パラメータ一覧表

システムパラメータ システム名 (Kohsec P1 CP2002)

番号	名称	標準設定	単位	備 考
01	キー音	00000001	OK	キーを押した際の音をよめるかよめるか
02	I軸原点復帰出力	00000000	OK	
03	II軸原点復帰出力	00000000	OK	
04	I軸原点復帰出力	00000000	OK	
05	II軸原点復帰出力	00000000	OK	
06	原点復帰後の位置	00000001	OK	PBS
07	原点復帰時の位置	00000000	OK	同数表示時状態パラメータ
08	原点復帰	00000000	OK	bit0 = I bit1 = II I#無効
09	EDITE	00000001	OK	
10	I軸スリット分解能	00000101	OK	通常は 5mm
11	II軸スリット分解能	00000101	OK	"
12	I軸表示単位	00000001	OK	通常は 10mm表示 50mm
13	II軸表示単位	00000001	OK	" 50mm
14	スリット出力	00000000	OK	スリット読取りの極性切換え
15	絶対位置検出	00000000	OK	出力位置と検出位置を比較して一致するか
16	速度表示	00000000	OK	I軸 II軸 2軸 II軸 2 = 1/2
17	I軸原点復帰出力	00000000	OK	
18	II軸原点復帰出力	00000000	OK	
19				
20	I軸原点復帰	09000000	10mm	
21	II軸原点復帰	09000000	10mm	
22	I軸原点復帰	09000000	10mm	
23	II軸原点復帰	09000000	10mm	
24	速度表示	00000002	10mm	速度表示時の速度は7.777777
25	速度表示	00011111	OK	
26	I軸原点復帰	00000100	OK	有効桁数は右から2桁と 0は有効
27	II軸原点復帰	00000100	OK	"
28				
29				
30	キーオフ	00000000	OK	
31	キーオフ	00000000	OK	速度表示はキーオフ時 0.000000
32	キーオフ	00000000	OK	パラメータ

システムパラメータ詳細

01 X

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
							KBUZ

桁目	名称	内 容	1	0
1	KBUZ	キーを押すごとにブザー音	あり	なし
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

02 X 03

原点検出前の出力

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8

桁目	名称	内 容	1	0
1	C8			
2	C7			
3	C6			
4	C5			
5	C4			
6	C3			
7	C2			
8	C1			

システムパラメータ詳細

10X+1

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
				SR4	SR3	SR2	SR1

SR4	SR3	SR2	SR1	スチール分解能 (mm)
0	0	0	0	設定禁止
0	0	0	1	設定禁止
0	0	1	0	設定禁止
0	0	1	1	1
0	1	0	0	2
0	1	0	1	5
0	1	1	0	設定禁止
0	1	1	1	20
1	0	0	0	25
1	0	0	1	50
1	0	1	0	設定禁止
1	0	1	1	設定禁止
1	1	0	0	設定禁止
1	1	0	1	設定禁止
1	1	1	0	設定禁止
1	1	1	1	設定禁止

システムパラメータ詳細

12X13

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
				BL4	BL3	BL2	BL1

桁目	名称	内 容	1	0
1	BL1	最小読取り単位 10mm	する	しない
2	BL2	" 20mm	する	しない
3	BL3	" 50mm	する	しない
4	BL4	" 100mm	する	しない
5				
6				
7				
8				

14X

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
						POR2	POR1

桁目	名称	内 容	1	0
1	POR1	I軸スチールの読取方向は	逆方向	順方向
2	POR2	II軸スチールの読取方向は	"	"
3				
4				
5				
6				
7				
8				

3-7 システム パラメータ

システム全体のパラメータの確認、および変更に使用します。

1. デフォルトモードで **SYS- PARA** が点滅するように
 [↑], [↓] キーでカーソルを移動させ、[SET] キーを押すことにより
 システムパラメータモードに入ります。

SYS- P01	← パラメータナンバー
00000000	← キー入力データ
00000000	← パラメータデータ

図 3-7-1

"P" が点滅中は、ナンバー入力です。

3-7-1 パラメータの確認

"P" が点滅中に、[0]~[9], [↑], [↓] で入力したナンバーに
 相当するデータが、データ表示に出力されます。

3-7-2 パラメータの設定

ナンバーを、設定後、[SET] キーを押すと、"P" の点滅は止まり
 キー入力受付状態になります。

1. で、[0]~[9] キーで、データを入力し [SET] を押すことにより、
 データ側には、キー入力データが移動され、データがセットされます。

3-7-3 パラメータモード特殊操作

[F] ----- キー受付状態から、ナンバー受付状態に戻す
 時に使用します。

P97 ----- パラメータ内容を全て "0" にする。

P98 ----- 標準パラメータの読み出し。

P99 ----- 編集したパラメータで、電源投入時のモード
 になり、実行します。

3-7-4 パラメータの書き込み [SW]

[SW] キーを押します。

P- SW-OFF	← プロテクトスイッチ: OFF
WRITING	← 点滅

"WRITING" が点滅中は、PROTECT switch が ON になっている
 状態です。OFF 側に倒すことにより書き込みをします。

"WRITING" 点滅中から [C] キーを押すことにより
 図 3-7-1 の表示にもどります。

"WRITING" 中は下段にセルフカウンター表示されます。

P- SW-OFF	
WRITING	
0000	← セルフカウンター

* 書き込み終了後、PROTECT switch は必ず OFF 側にしてください。
 OFF の時、電源の ON/OFF をするとパラメータが消滅してしまう可能性があります。

システムパラメータ詳細

04X05 非常停止時の出力

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
C2	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8

桁目	名称	内 容	1	0
1	C8			
2	C7			
3	C6			
4	C5			
5	C4			
6	C3			
7	C2			
8	C1			

06X 原点検出後の表示

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目

桁目	名称	内 容	1	0
1	POS	表示を位置表示に	する	しない
2	VER	表示を速度表示に	する	しない
3	COU	表示を回数表示に	する	しない
4				
5				
6				
7				
8				

全て0の場合は電源OFF時のエート

システムパラメータ詳細

07X 回数表示パラメータ

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
				INT3	INT2	INT1	UPD

桁目	名称	内 容	1	0
1	UPD	カウンタ回数の数値は	UPとする	DOWNとする
2	INT1	カウンタ1の戻り値	カウントする	カウントしない
3	INT2	カウンタ2の戻り値	〃	〃
4	INT3	カウンタ3の戻り値	〃	〃
5				
6				
7				
8				

08X

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目

桁目	名称	内 容	1	0
1	SI	I軸は	無効	有効
2	SII	II軸は	無効	有効
3				
4				
5				
6				
7				
8				

システムパラメータ詳細

15X 相対動作切換

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
							WC 1

桁目	名称	内 容	1	0
1	WC 1	ステール I, II の関係	相対動作とする	単独とする
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

11

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目

桁目	名称	内 容	1	0
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

システムパラメータ詳細

031

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
					P-DRY	P-DATA	P-REG

桁目	名称	内 容	1	0
1	P-PRG	キーロフ中にPROGRAMは	見れない	見れる
2	P-DATA	キーロフ中にDATA-CHは	出来ない	出来る
3	P-DRY	キーロフ中にDRY-RUNは	出来ない	出来る
4				
5				
6				
7				
8				

032

8桁目	7桁目	6桁目	5桁目	4桁目	3桁目	2桁目	1桁目
						P-II	P-I

桁目	名称	内 容	1	0
1	P-I	キーロフ中にI軸位置が	出来ない	出来る
2	P-II	「 II 」	出来ない	出来る
3				
4				
5				
6				
7				
8				

・ バッテリー アラーム

06 ERROR

Kohsec-PI は 電源断の間、電池により 格納した パターンを 保持 します。

その電池の電圧は 通常 3V 近くありますが、それが 2.5V より低くなると 電源投入時に このアラーム が表示 されます。

[C] キーを押すと アラーム表示は 解除 できますが 電源を を入れたまま、電池を 市販の 単三電池 2本と 交換 してください。

・ 位置監視アラーム

25 ERROR

カウンタの表示範囲を 越えた場合に このアラーム が表示 されます。

スツール、または 読取りヘッドに 異常 があります。

[C] キーにより アラーム表示は 解除 出来ますが、再度 原点 検出 を 行っ てください。

このアラームが 発生 する場合は 全システム の再チェックが 必要 です。

・ 位置範囲監視アラーム

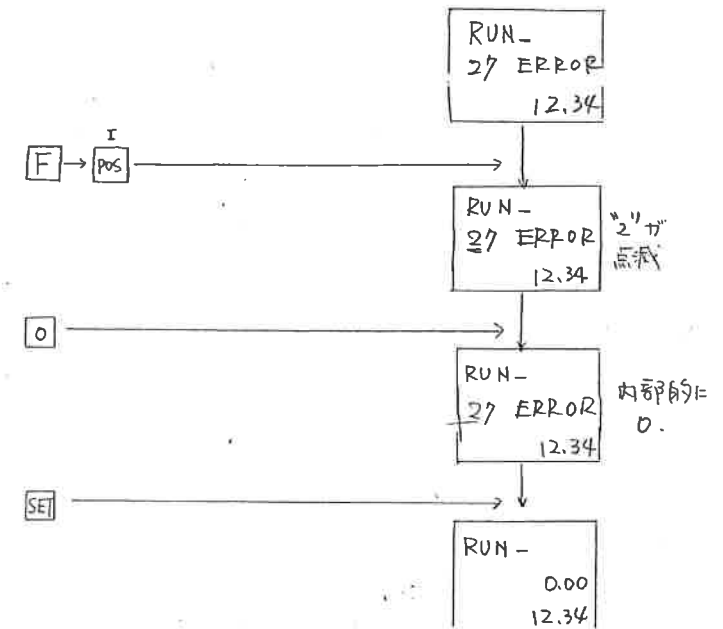
27 ERROR

ソフトリミット を、こえた場合に 表示 されます。

スツールを ソフトリミット 内に もどせば 解除 されますが、

座標を プリセット することも 解除 出来ます。

① I 軸の Error 27 を プリセット で 解除 する



II 軸の場合は [F] → [VE] で同様な 操作 をする。

5 10他のキー操作

5-1 INCH-RUNの省略

☐ キーを押しながら電源を投入すると

INPX-
K-READ
PROGRAM

と表示され INCH-RUN が省略されます。

尚、原点は、電源投入時のスケール位置とります。

5-2 標準パラメータの読み込み

☐ キーを押しながら電源を投入すると

原点復帰後の
表示

と表示され、INCH-RUNを省略し、標準パラメータを読み込みました。

このままシステムパラメータモードにて、☐ キーを押せば、標準パラメータが、読み込まれます。

☐ キーを押しながら電源を投入しても、再投入をすると、前のパラメータで動作します。

※ 電源投入時、カウンタの動作が、異常と思われる時は、一度はこの操作を、してください。

5-3 テンフ パターンの読み込み

☐ キーを押しながら、電源を投入すると、パターン 1 にテンフパターンを書き込みます。

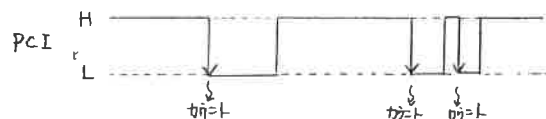
[社内用のテンフモードで、今まで、格納しておいた]
パターン 1 を破棄しますので、充分、注意してください]

付録 4. タイムチャート

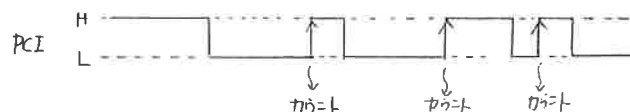
I/O-1 PCI [パルス回数入力]

パラメータ 07 で パルス回数表示のカウントが PCI による様に 3 or 4 桁目に '1' を付けた場合に有効となります。

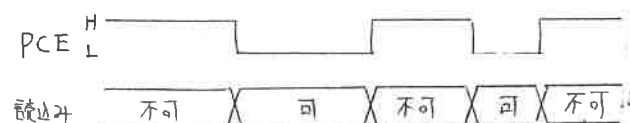
① パラメータ P07 の 3 桁目が '1' の場合



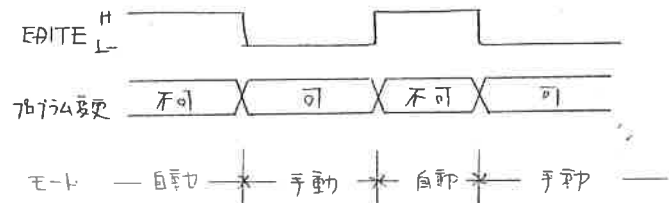
② パラメータ P07 の 4 桁目が '1' の場合



I/O-2 PCE [パルス回数読み禁止]



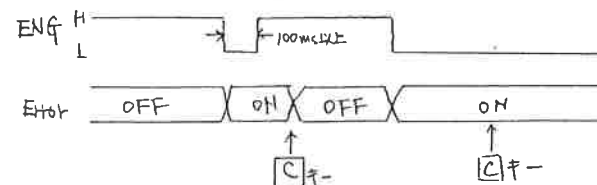
I/O-3 EDITE [プログラム変更禁止]



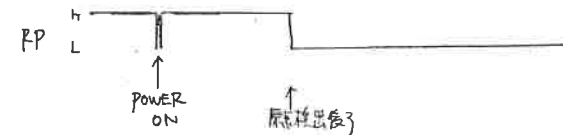
H ... OPEN
L ... CLOSE

FUTABA CORPORATION

I/O-4 EMG 非常停止



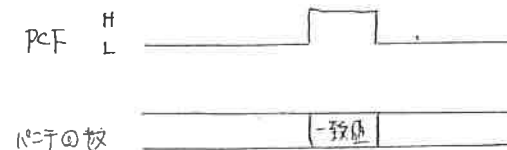
I/O-24 RP [原点検出完了]



I/O-23 ALM [アラーム信号]



I/O-25 PCF [パルス終了]



H ... OPEN
L ... CLOSE

FUTABA CORPORATION

CP2002 初期化の手順

1. 標準パラメータで起動する

F キーを押しながら電源を入れる

標準パラメータを読み込み、INCH_RUN を省略して立ち上がる

2. INCH_RUN を省略して立ち上がる方法

IDX キーを押しながら電源を入れる

3. 標準パラメータを書き込む

SYS. -PARAM モードにして、P98, SET をする

一部書き込みしないところがあるので 0 から 39 番までしらべて、
でたらめな値があったらゼロにする

STOR キーを押して PROTECT_SW を OFF すると書き込みが始まる

終わったら、SW を ON にする

4. パターンをクリアする

PAT. -CLR モードにして P-5 を選び SET すると全パターンがクリアされる

5. 原点シフト量をゼロにする

PROGRAM モードで最初に下段に Z 0.00 と原点シフト量が出る値が
でたらめな値のときは 0, SET でゼロを書き込む

6. 型番をクリアする

PROGRAM モードの中段の表示 (K-000000) がでたらめな場合は、

編集画面 (POS1C1D1) にしてから STOR キーを押したところで、↓キーを押すと

中段の K が点滅するのでそこで 0, SET して、再度 STOR キーを押す

※通常は電源を入れるとスケール原点の待ち状態になり、原点検出するまでの間は全てのキーを受け付けない。